

平成29年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団	代表者	野口雅滋	法人・ 事業所の 特徴	事業所の理念【「思い」「暮らし」「絆」を支援する】を職員全員が共有し実践できる体制を構築し、利用者の「思い」の実現に向けた支援を目指しています。事業所は長年、地域の人々に親まれた集会場を改修し併設され、地域福祉の拠点となっています。地域行事等、地域の住民協働による活動に積極的に参画し、地域との繋がりを大切に事業運営をしています。
事業所名	京都厚生園松尾の家	管理者	久保健太郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	3人	人	人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・運営推進会議で報告する内容を見直し、事業所の取組みを判りやすく報告する。	職員の入れ替わりがあったことから、サービス評価の改善計画に沿って職員全員で丁寧に話し合う機会を作った。	地域行事や地域資源の活用を今後も継続すると共にさらに関係性が深められるよう工夫してほしい。	私の支援マップシートを作って地域の中での活動の場を広げるために地域の民生委員や老人福祉員などの協力を得ながら地域包括支援センターと連携を図っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・花の鉢植え等、玄関前に季節に合わせた花を植える。 ・花壇設置の検討。(協力頂けるボランティアの募集)	地域の方々により、事業所の敷地内にある庭の花の世話をいただいた。 行事の時には、ウェルカムボードを設置し、入りやすいように工夫した。	ボランティアの方々から、明るい環境で異臭等もなく、事業所内の環境について気になることはないという声がある。	開所10年が経過し家具等物品の修理が必要になってきている為、計画的に改善に向け随時対応していく。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域行事に参加する時、送迎・訪問時、来所時に気持ちの良い挨拶をする。 ・地域の「高齢者居場所づくり」の場所の提供等、協力できることを検討。	平成29年4月、事業所に併設している会議室にて「喫茶まつのを」(井戸店)がオープンされ職員が地域の方々(ご利用者・学区社協役員等)に積極的に挨拶や声かけをするよう努めている。	事業所の認知度がまだ低い。親族や知人が実際に介護が必要な状態になってから認知症や介護について考えている状況。もっと地域に対して「松尾の家」の活動を知ってもらう必要がある。	地域ケア会議等の地域づくりに積極的に参加する。事業所に気軽に足を運んでもらえるよう行事の企画を検討する。地域の方々に事業所について知っていただくための広報や有効な案内方法について検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・自宅生活に心配のある利用者の暮らす環境について着目し、関わり方を検討する。	ご利用者が、以前から利用されていた美容院や病院、歯科等、これまで築かれてきた地域との関わり、地域での暮らしが継続できるように支援した。	近隣の神社仏閣などの散策や地域行事に積極的に参加することで、地域との馴染みの関係を継続できるよう工夫がされている。	体調不良などで通いに来れない時にも自宅に出向いて支援する訪問サービスができる職員の研修を計画的に実施し体制を整える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・会議の年間計画を作成し、テーマを決めて参加者からの意見・評価を受けるようにしていく。	運営推進会議のテーマを決め、年間計画を作成し、テーマに沿った運営推進会議の進行に努めた。事業所の活動内容を分かりやすく、スライド写真を活用して説明した。	運営推進会議で出た意見については改善に向けて取組みや必要な報告を行っていた。地域で心配のある方の事例検討はなかった。	引続き運営推進会議で事業所の活動をより分かりやすく説明できるよう工夫改善していく。行事へ参加していただく機会を設け、意見が出しやすいようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	・外部非常ベルの音量について検討する。 ・近隣住民参加の避難訓練を継続。 ・地域防災訓練への参加継続。	近隣住民参加の消防避難訓練を定期的に開催。避難誘導時の協力体制について説明し理解を深め、近隣住民との意見交換の場となっている。	地域の防災訓練への参画までは求められていないと思う。どう参加するかが大切。松尾の家が頼りになるかは、分からない。	災害時に使用する備品(担架等)の整備を行う。松尾の家ができることを検討する。避難場所になりえる場所でもある重要性を考える。